

高木リスト

広島県産高等植物目録

広島市植物公園編

TAKAGI'S LIST

Enumeration of the Vascular Plants in Hiroshima Prefecture

Edited by the Hiroshima Botanical Garden

はじめに

高木哲雄氏(1905 - 1945)は、山口県由宇町出身の植物研究者である。氏の経歴や業績について詳細に記した渡辺(1984a, b)によると高木氏は、昭和初期に広島県内各地で開催された植物採集会に指導者として招かれたばかりでなく、自らも牧野富太郎や田代善太郎らを招いて採集会を開催するなど、当時最も活発に植物採集活動を行った1人であったようで、その活躍ぶりは、ナヨテンマの再発見記でも紹介されている(津山1952)。このような活動で得られた自生植物に関する知見は、仏通寺(高木1929)、道後山(高木1931)、帝釈(高木1932)、三段峡(高木1937)など、地域ごとの記録として発表された(附表)ほか、「広島県に於ける高等植物の分布に就て(予報)」(高木1933)としてまとめられている。この予報は、今日でも広島県の植物相を解明する上できわめて重要な文献とされ、高木氏が当時の広島県の植物相の全容をほぼ完全に把握していたことを示唆するものと考えられている(広島県植物誌)。この予報で高木氏は、広島県に自生する高等植物(維管束植物)を140科、695属、1837種とし、それらの分布の特徴や他地域との関連などについて、代表種と産地を挙げながら論じているが、自生する高等植物の目録は掲載されていない。広島県内に自生する植物をまとめて公表したのものとしては、予報から50年後に出版された「広島県植物目録」(上井1983)と1997年の「広島県植物誌」だけである。

ところが、2002年6~12月の間、高木哲雄氏の生家がある山口県由宇町の歴史民族資料館が開催した「牧野富太郎と高木哲雄先生」展に氏の貴重な遺稿として公開された展示品の中に、広島県内の自生植物名とそれらの産地などを克明に記録した資料「広島県植物誌(仮題)」が発見された。この資料には表題、著者、著作年などの記述はないが、氏のご子息である高木哲昭氏によると、高木哲雄氏が書き記したものであるということであった。その後この資料は、広島市植物公園に紹介・貸与され、本園がこの資料の内容を調査する機会を得た。調査の結果この資料は、当時知られていた広島県産の維管束植物を網羅した植物リストで、後に高木哲雄氏が発表を予定していたと考えられる「広島県に於ける高等

植物の分布」の基になったと思われる内容であった。そこで、氏の未発表の業績を後世に伝え、さらに広島県の植物相の正確な解明に資することを目的に、新たに発見された資料を「高木リスト 広島県産高等植物目録 広島市植物公園編」として公表することにした。また、広島大学理学研究科附属宮島自然植物実験所の協力により、同所に保管されている高木哲雄氏の植物標本をあわせて調査し、自生植物の証拠標本と考えられるものを目録中に掲載した。なお、この資料は渡辺(1984b)が紹介しているように被爆による焼失を免れたものであるが、その後今日に至った経緯については、高木哲昭氏から別項で説明していただいている。

以上のように、被爆の惨禍をしのぎ残った貴重な資料を、被爆60周年という節目の年に広島市植物公園で復活公表できることに特別な意義を感じざるを得ない。光栄な機会を提供いただいた高木哲昭氏と標本の調査をお許しいただいた広島大学理学研究科附属宮島自然植物実験所に深謝するものである。また、この調査を進めるにあたり様々な助言をいただいた関太郎広島大学名誉教授、吉野由紀夫氏(東和科学株式会社)、シダの標本を同定していただいた松村雅文氏に感謝の意を表したい。

「高木リスト 広島県産高等植物目録 広島市植物公園編」の作成

資料「広島県植物誌(仮題)」の概要

資料は、布張りの表紙を備えたB5版で、ノートを綴じたものようである(写真1)。1から400ページまでページ数が印字してあるが、4~10ページは科の日次で、11~318ページまでに目録形式の記述がある。記述は見開きにした左ページに左からシダ類の場合は学名、和名、生育環境が、種子植物の場合は学名、和名、生育型、生育環境、開花(結実)期があり、右ページには両者とも左から日本における分布、備後地方の産地、安芸地方の産地が記されている。生育型が緑色のインクで書かれている以外は基本的に黒色の万年筆で記入されているが、和名、生育環境、分布、産地などの項目には赤色インクで加筆したと思われる部分が多数ある。また、帝釈、道後山、藤尾、福山、三段峡などしばしば登

場する産地は青色インクで印が押されているほかB、N、S、X、○などの記号や丸で囲んだ文字も多数見られたが(写真2)凡例がなく解読できなかった。

産地を表す省略文字の中には天=天徳峡(現在の宇賀峡)、灰=灰が峰、恵=湯来町恵下、宮=宮島、牛=牛田などと推測できるものもあったが、Ege(絵下又は恵下)、江(江波又は江田島)のように特定できない場合もあった。また、個々の産地の後ろに()に入れたイニシャルのような記述のあるものがあり、例えば(M)は牧野を示しているようであるが確認できなかった。

「高木リスト」の概要

原本は傷みが激しかったため電子複写によるコピーから転記した。インクの滲みなどのためコピーでは判読しにくい文字については原本を見て確認したが、最終的に解読不明な文字は表中に?を記入した。リストの内容は、広島県の野生植物資料として活用しやすい形態にすることを考慮し、元の記述の中から学名、和名、産地(備後と安芸を含む)を抜き出したものに現在使われている標準和名を付記する表とした。標準和名の選定は次によった。先ず元の和名の仮名遣いを現代仮名遣いに改めた「現代名」に変換した。次に現代名と元の学名が

ともに現在も使われている場合：現代名を標準和名とした。現代名が使われているが元の学名がその異



写真1. 資料の外観

名として扱われている場合：現代名を標準和名とした。元の学名が現在別種の学名であるか又は別種の異名として扱われている場合：その学名に対応した

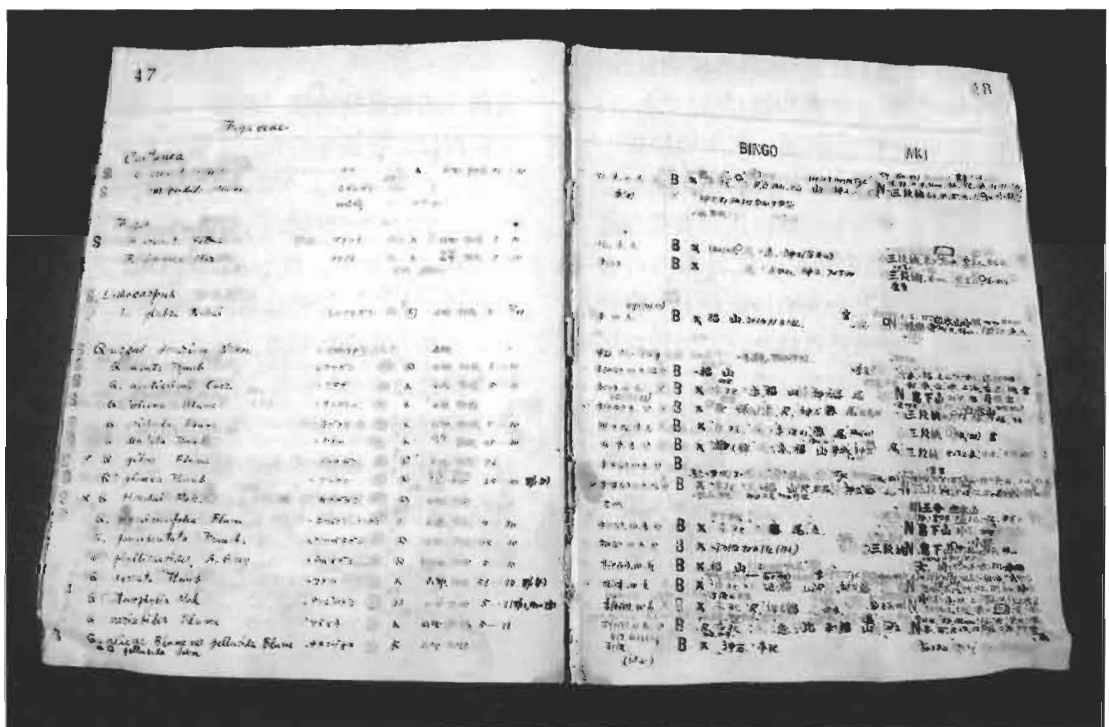


写真2. 資料の記入状況

種を標準和名とした。花色や実色の変異に基づいた品種などで、現在学名上の区別がないと思われるものを含め、元の学名に対応する種がない場合：現代名をそのまま標準和名とし、学名不詳の記号を付した（後述）。以上の和名、学名などの検討には主に広島県植物誌と日本の野生植物（草本Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、木本Ⅰ、Ⅱ、）日本の帰化植物、広島県のシダ植物、改定増補新版日本植物誌顕花編、新日本植物誌シダ篇、日本タケ科植物総目録、日本スゲ植物図譜、Yamazaki (1996)、米倉浩司・梶田忠 (2003) を参考にした。

今回調査した高木哲雄の標本のうち、標本の和名及び産地名が本資料の和名及び産地名に一致するのは、産地欄の地名の後ろの（ ）内に標本番号を斜体で書き加えた。和名は一致するが標本の産地名が資料の産地欄にないものは、標本の産地及び標本番号を目録の産地欄に斜体で書き加えた。

本リストには、シダ植物と種子植物のあわせて165科、794属、2,597種類が記録されている。このうち標準和名が広島県植物誌に自生種として掲載されているものは1,962種類であった（標準和名の右側に*）。残る635種類のなかで広島県内の産地が記述されている481種類について和名及び学名の検討、或いは標本の調査を行った結果は次のとおりであった。

1. 広島県植物誌未確認種（標準和名の右に1）

コウザキシダ、キツネヤナギ、アツモリソウなど85種は広島県植物誌に未確認種または要検討種として掲載されたものである。これらのうちヤマトアオダモ【標本番号1295】は葉柄が短い、葉脈上や小葉基部に縮毛があるなどの特徴を備えており、本種の可能性があると考えられる。また、イブキシカボ【1521, Plate a】は、花序の形、苞穎の特徴などから本種の可能性が高いと考えられる。一方アキギリ、ヤマタツナミソウ、タマミクリは標本を調査したが同定不可能であった。

シロバナイヌタデ、ツシマナナカマド、ツルメドハギ、アオジクユズリハ、オオクマヤナギ、ケマルバスマレ、ホソバシオデの7種については広島県植物誌がそれまでの報告を引用している。カラハナソウ、マダイオウ、キセワタ、ナガバジュズネノキ、シロバナイナモリソウ、ケテイカカズラ、キンキカサスゲ、ホンモンジスゲ、シロバナエンレイソウ、テガタチドリは広島県植物誌発行以降に自生が確認された種であるが、カラハナソウ【5078】、キセワ

タ【1296】は当時から標本に基づく記録があったことがわかる。

2. 分類学的取り扱いが異なるもの（標準和名の右に2）

ニシキシダ、ナガバノヤマグルマ、ヤマガキなど14種は、例えばニシキシダが広義のイヌワラビとされているように、分類学的な取り扱いが異なるために広島県植物誌に掲載されなかったと考えられるものである。当時は形態的な相違点を重視し、現在に比べ種を細かく分類していたことが伺える。

3. 誤同定ではないかと考えられるもの（標準和名の右に3）

これまでも報告があったが広島県植物誌でそれらが誤同定であったと指摘されているものが33種あった。このうち帝釈産のヤマモミジ【1288, 1289】はオオモミジであった。同じく【1505, Plate b】は葉の外形からフカギレオオモミジ (*Acer amoenum* Carr. f. *palmatipartium* (Koidz.) Ogata) と呼ばれるタイプと考えられる。

広島県内のイワギボウシについては、宮島産として報告されたものがナンカイギボウシであったことが指摘されている（広島県植物誌）。今回調査した三段峡産【7663】はオオバギボウシであった。

ハマアカザ、バライチゴ、ナナカマドなど以上に述べなかった31種は、今回の調査では標本による確認ができなかった。なお、マルバウツギの学名が *Deutzia sieboldii* (ツクシウツギ) となっているが、*D. scabra* の間違いではないかと思われる。

4. 学名不詳のもの（標準和名の右に4）

資料中の和名及び学名が今日のどの種に該当するのか判明しなかった95種に学名不詳として4を記した。このうち、タイシャクヘウタンボクは裸名で標本の調査からオニヒョウタンボクであることが広島県植物誌に述べられている。同様にテシマザサも未発表と思われる。また、標本による検討が可能だったアキコゴメグサ【2281, Plate d】は、全体の大きさや葉の鋸歯の特徴などからタチコゴメグサと考えられる。

5. 広島県未報告種（標準和名の右に5）

これまで広島県内に自生の記録がないものが216種記録されていた。そのうち標本の調査を行ったの

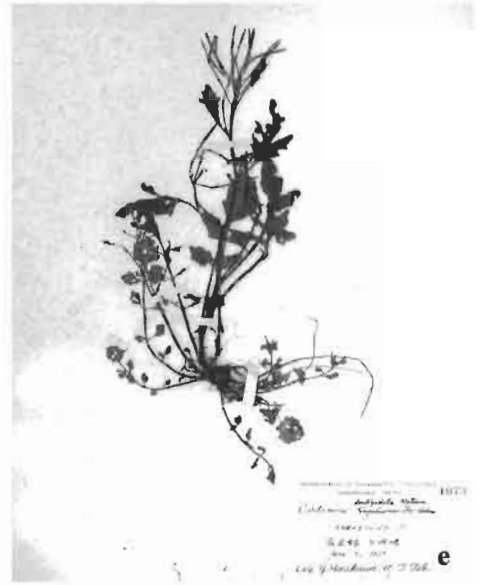


Plate 証拠標本の写真 a: イブキヌカボ、b: フカギレオオモミジ、c: ヤマキケマン、d: タチコゴメグサ、e: ヤマタネツケバナ、f: タイシャクイタヤ

は次の種である。

キンモウワラビ【5065】とアスカイノデ【10057】はそれぞれケキンモウワラビとイノデであった(松村雅文氏の同定)。

ヒダフウロ (*Geranium hidaense* Makino) のラベルのある標本【2127, 2128, 2016】は、花柱の分枝の特徴などからビッチュウフウロと思われる。

イブキコゴメグサ【2279】(資料及び標本ラベルはコゴメグサとなっている)は、1シートに3個体と思われる標本があり、葉の形や鋸歯の状態がキュウシュウコゴメグサの特徴と一致するものとしなものがあり、今後詳細な検討が必要と考えられる。

ハバピロスゲ (*Carex foliosissima* Fr. Schm. var. *latissima* Akiyama) は、大井(1978)がオクノカンスゲの1変種としている。三段峡産の標本【1994】は葉の幅が15mm以上あり、この変種の型と思われる。

ハリスゲ (*Carex onoei* Franch. et Sav.) は、現在ヒカゲハリスゲと呼ばれるが(日本の野生植物I)、標本【2087, 2334】は茎の断面の特徴からハリガネスゲ (*C. capillacea*: 広島県植物誌未確認種)ではないかと考えられる。

ヤマキケマンのラベルがある三段峡産の標本を調べたところ、【2185, 2186, 2187】はこれまでに記録のあるフウロケマンであったが、【373, 1906, 1907, Plate c】は乾燥標本の植物体が黒変していることや蒴果が著しく屈曲しているなどの特徴からヤマキケマンである可能性が高い。

イワハタザオは、三段峡産の標本【2162】を調べたが、根生葉がないため同定は不可能であった。

オオケタネツケバナは、三段峡産の【1972, 1973, Plate e】は本種と思われたが、【1868, 1900】はヤマタネツケバナであった。

ガクウツギが記録されているが、三段峡産の【1885】はコガクウツギであった。

ヤグルマカエデのラベルがある標本はいずれも帝釈峡で採集されたもので【1501, 5121, 5122, plate f】を調べたところこれらは、葉身の表裏の毛の特徴からタイシャクイタヤと考えられた。緒方(1964)は、ヤグルマカエデをウラゲエンコウカエデやタイシャクイタヤの幼形の一つとしているが、別変種 *A. mono* Maxim. var. *ambiguum* (Pax) Rehder f. *subtrifidum* (Makino) Rehder とされることやウラゲエンコウカエデ (*A. mono* Maxim. var. *connivens* (Nichols.) Hara) の別名として扱われることもあ

る。今後帝釈地方においてこの群の詳細な検討が望まれる。

その他にキレンゲシヨウマの産地として安中と殿賀村が挙げられている。これらの標本を確認することはできなかったが、三上幸三氏によって生品が初めて紹介される数十年前からすでに本種の自生が認識され、しかもそれらが現在知られている自生地とはかなり離れているということは、広島県内における本種の分布を正確に把握する上で貴重な記録である。

参考文献

- 土井美夫 1983. 広島県植物目録. 148pp. 博新館, 広島県.
- 広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832pp. 中国新聞社, 広島県.
- 岩槻邦男(編) 2002. 日本の野生植物 シダ. 310pp. 平凡社, 東京.
- 中池敏之 1982. 新日本植物誌シダ篇. 808pp. 至文堂, 東京.
- 大井次三郎 1978. 改訂増補新版 日本植物誌 顕花篇. 1584pp. 至文堂, 東京.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編) 1981. 日本の野生植物 草本III 合弁花類. 259pp. 平凡社, 東京.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編) 1982. 日本の野生植物 草本I 単子葉類. 305pp. 平凡社, 東京.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編) 1982. 日本の野生植物 草本II 離弁花類. 318pp. 平凡社, 東京.
- 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫(編) 1999. 日本の野生植物 木本I. 321pp. 平凡社, 東京.
- 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫(編) 1999. 日本の野生植物 木本II. 305pp. 平凡社, 東京.
- 清水建美(編) 2003. 日本の帰化植物. 337pp. 平凡社, 東京.
- 鈴木貞雄 1978. 日本タケ科植物総目録. 384pp. 学習研究社, 東京.
- 高木哲雄 1929. 仏通寺山植物目録. 12pp. (謄写版), 自刊.
- 高木哲雄 1931. 道後山の植物について. 山岳叢書 第1輯: 3-8, 広島山岳会.

- 高木哲雄 1932. 帝釈峡の植物について. 中国新聞, 昭和7年10月8日付.
- 高木哲雄 1933. 広島県に於ける高等植物の分布に就て (予報). 崇徳 10: 1-11.
- 高木哲雄 1937. 三段峡及び刈尾山の植物目録. 広島植物同好会報 1: 1-20.
- 竹田孝雄 1987. 広島県のシダ植物. 560pp. 博新館, 広島県.
- 津山 尚 1952. 日本産オニノヤガラ属雑記 (1), *Gastrodia gracilis* Bl. の再発見に就いて. 植物研究雑誌 27 (1): 19-26.
- Yamazaki, T. 1996. A revision of genus *Rhododendron* in Japan, Taiwan, Korea and Sakhalin. 179pp. Tsumura Lab. Tokyo.
- 吉川純幹 1957. 日本スゲ属植物図譜 第一巻. 146pp. 北陸の植物の会, 石川県.
- 吉川純幹 1958. 日本スゲ属植物図譜 第二巻. 151pp. 北陸の植物の会, 石川県.
- 米倉浩司・梶田忠 (2003) 「BG Plants 和名-学名インデックス」 (YList), http://www.bg.s.u-tokyo.ac.jp/bgplants/ylist_main.html.
- 渡辺泰邦 1984a. 昭和初期, 広島県下における植物採集会活動. 比婆科学 128: 1-7.
- 渡辺泰邦 1984b. 高木哲雄氏が広島県の植物教育に残した足跡. 比婆科学 128: 9-15.

付表 広島県の植物研究文献目録 (高木哲雄所蔵文献目録による)

広島附近産蘚類目録 (昭和6年1月) 野口 彰 著
中国地方産蘚類 (まんさく No. 9 抜刷) 笹岡久彦 著
広島県羊歯植物トソノ産地 (昭和10年2月記) 内田喜代志 調査
厳島植物目録及広島県の地形地質 (1918) 広島県山林会
三段峡植物目録 (昭和9年8月) 高木哲雄 編
安芸南原峡植物目録 (IX, 1932) 高木哲雄 著
広島県に於ける高等植物の分布に就いて (II, 1933) 高木哲雄 著
広島県地理 広文館
三段峡案内 熊勝〜 著
宮島国有林概況 広島営林署
豊田郡植物誌 (1931) 井上幹造 著
広島市植物便覧 (II, 1936) 広島市理科主任会 編
天覧標本目録 (Oct. 1936) 広島県
小瀬川流域植物及び備後沼隈半島植物 (1927) 高木哲雄 著
史跡名勝天然記念物国寶案内 (Oct. 1933) 広島県
広島県山岳目録 広島山岳会 編
安芸四和村 細田善次??ニ依る
安芸四和村植物目録 細田善次??ニ依る
瀧山峡植物目録 (Nov. 2, 1935) 高木哲雄
安芸国産植物目録 大日本樹木? 抜書
天徳峡植物目録 (Oct. 20, 1935) 高木哲雄
極楽寺山植物目録 (May 24, 1936) 高木哲雄
呉市附近植物目録 (Sept. 1929) 高木哲雄
豊田郡木谷村動植物調査表 (XII, 1937) 木谷小学校
自然界研究表 (玖波村) (II, 1929) 古川一明
安芸上山植物目録 (May 1930) 高木哲雄
豊田郡中部主要植物目録 (June 1938) 理科主任会
安芸仙霞溪植物 (May 1937) 高木哲雄
安芸冠山植物目録 (Sep. 1937) 高木哲雄

緑井村植物採集名覧 (June 1932)	緑井小学校
鷹巣山植物目録 (July 1931)	加茂郡実習会
忠海附近地方植物目録 (May 1931)	井上幹造
安佐郡福王寺山植物目録	高木哲雄
佐伯郡巖島町弥山植物	高木哲雄
佐伯郡能美島植物 (Sept. 1927)	高木哲雄
恵下山及び不明山植物目録 (Jan. 1932)	高木哲雄
安芸恵下山及び不明山植物目録 (Oct. 1935)	高木哲雄
佐伯郡極楽寺山植物 (May 1931)	高木哲雄
緑井 (太田川畔) - 毘沙門山植物 (June 1932)	高木哲雄
安芸三段峡植物目録 (May 10, 1937)	全国中学校博物教育会
安芸三段峡植物目録 全国中学校博物教育会 (新記入) (May 16-17, 1937)	高木哲雄
安芸三段峡植物目録 全国中学校博物教育会 (用途記入) (July 11, 1937)	高木哲雄
白木山植物	広島県師範学校
白木山植物目録 (1931)	高木哲雄
安芸白木山植物目録 (用途記入) (Aug. 13, 1938)	高木哲雄
三段峡の植物目録 (Nov. 1935)	高木哲雄
三段峡の木本植物 (Oct. 1927)	高木哲雄
三段峡及び苅尾山植物目録	
安芸三段峡植物目録	広島高師植物教室
佛通寺山植物目録 (Sept. 1927)	高木哲雄
寂地山、羅漢山、鬼ヶ城山植物 (Aug. 1929)	高木哲雄
三段峡の有用植物 (July 1937)	高木哲雄
三瀧山及牛田町植物目録 (July 1929)	高木哲雄
神石郡植物目録 (1932)	井上幹造 著
道後山. 登山と研究 (Aug. 1931)	広島山岳会 編
道後山の植物に就いて	高木哲雄 記
比婆郡八鉢村道後山植物目録	国信玉三、佐藤月二 記
道後山を飾る植物	佐藤月二 記
深安郡山野村竜頭の瀧植物 (Oct. 1930)	守屋護伊一 著
藤尾植物誌 (Dec. 1933)	河毛周夫 著
備後. 帝釈峡植物目録 (Aug. 1932)	高木哲雄 著
備後. 芦品郡羊歯植物誌 (1933)	河毛周夫 著
神石郡植物誌 (1933)	油木農学校
帝釈峡植物目録 (1932)	川崎・藤井 共著
美古登連峰植物目録 (July 1933)	比婆郡第二教育会
備後沼隈郡植物目録 (Nov. 1936)	高木哲雄
仙酔島の植物 (1936)	榎田尊夫
瀬之津の生物図 (1933)	橋岡信一
帝釈峡植物目録 (1935)	高師植物教室
沼隈郡植物目録 (1927)	高木哲雄
備後・道後山・猫山・飯山及び帝釈峡植物目録 (1934)	
今礪山植物目録 (1935)	S. Seo 氏による

増、訂備後帝釈峡植物目録 (June 23-25, 1935)	高木哲雄
道後山 (July 1937)	広島県農会
道後山の植物景観並びにその保存に就いて	生駒義博
道後山植物目録 (1930)	広島県師範学校
備後道後山の有用植物 (July 1937)	高木哲雄
道後山登山 (July 1937)	
三次、河内、帝釈、玖波の植物	高木哲雄
久代、田森、小奴可、小町、帯、八銚、東城、戸手、三井の植物	高木哲雄
阿下、仙養一未見、永渡、吉川、高蓋、豊松、猫山の植物	高木哲雄
備後帝釈峡標本目録 (1929-1932)	高木哲雄
帝釈峡植物目録 (June 1932)	高木哲雄
備後帝釈峡植物目録 (Aug. 1932)	高木哲雄
帝釈峡植物 (Oct. 1929)	高木哲雄
備後帝釈附近の植物に就いて (May 1927)	渡辺秀三郎
比婆郡比和村及高野山村植物	高木哲雄
備後、比和一高野山村植物目録	高木哲雄
備後、藤尾植物目録	高木哲雄
芦品郡藤尾植物目録	高木哲雄
広島県植物誌	高木哲雄
三瀧山及牛田町植物目録	高木哲雄
緑井一毘沙門山植物	高木哲雄
都谷峡植物目録 (May 17, 1937)	高木哲雄
三段峡植物目録	広島高師植物教室 編
三段峡植物目録	昭和9年8月
巖島植物目録	W. Sato
冠山植物目録	Sep. 3-5, 1932 調 W. Sato
佛通寺植物目録 (昭和6年11月)	M. Inoue
鷹巣山植物目録 (昭和6年7月)	賀茂植物実習会
比治山植物目録	縣師、堀江和七
安佐郡白木山植物目録 10/V 1930	縣師
忠海附近地方植物目録 (昭和6年5月)	井上幹造
沼隈郡産植物標本鑑定品目録 (Nov. 14-15, 1936)	軺小学校 福田尊夫氏採集品による